



2月

畜産総合センターようじん通信

平成30年2月

○冬場の温度管理について

雪が降ったり、昼間は晴れていても夜になると0℃を下回る日も多いなど、保温が一層重要な季節となっています。一方で、保温のために換気を行わないと、空気中の微生物やアンモニア濃度が高まることも懸念されます。

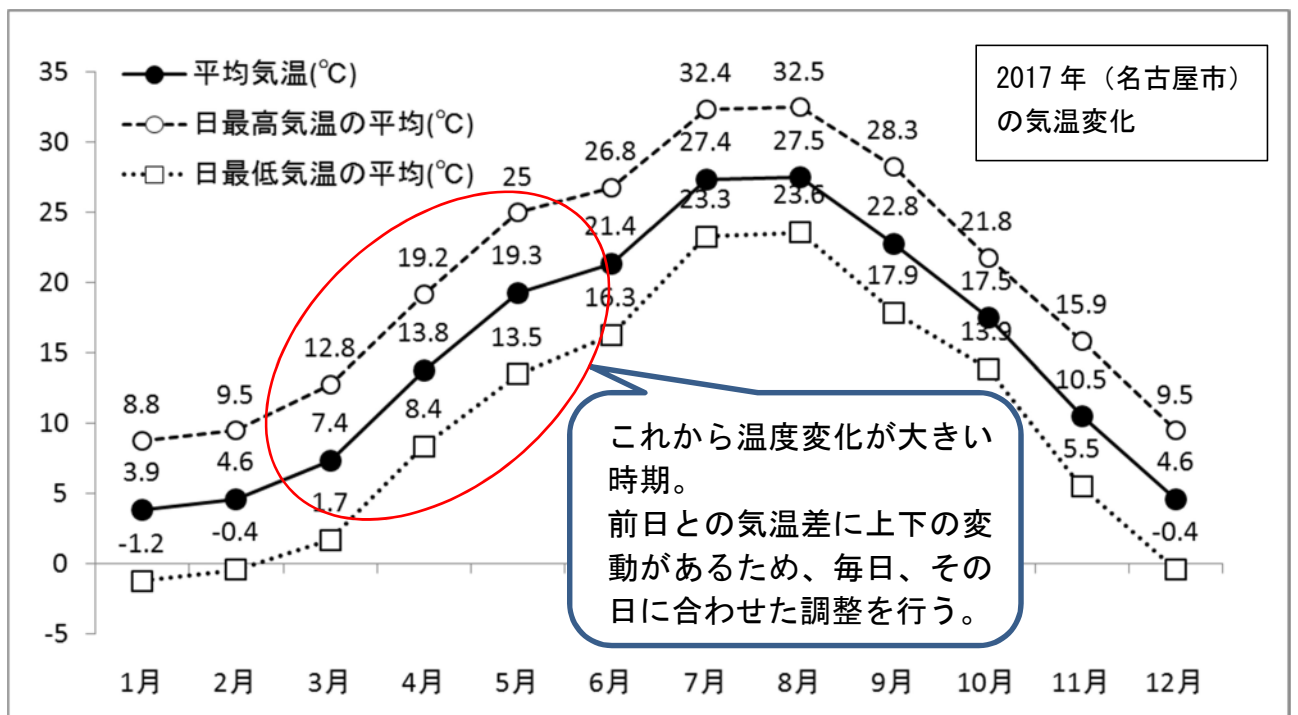
当所では、各豚舎に温湿度計を設置し、各豚舎の担当者が毎日最高気温・最低気温と湿度を記録することにしてしています。これにより、一日の温度変化を意識しながら換気や保温の管理を行いやすくなります。また、春先や秋口といった日々気温が変化していく時期でも、個人の感覚だけに頼らず客観的な記録値を参照することで、的確な調整を行いやすくなります。

全体的な室温だけでなく、すきま風や湿った床は体感温度を著しく下げするため、日々飼養管理する中で、風がある場所がないか意識して感じるようにしたり、隣接した豚房と豚の様子ที่異なる場所がないかよく観察したりして、これらを発見した場合はすきまを塞ぐなど速やかに対処しています。

寒くて水を使う作業や作業着の着替えも辛い季節ですが、少しずつ春が近づいてきていますので、変化に気を配りながら管理していきたいと思ひます。

H 年		月	1	2	3	4	5	6	7
分娩	温度	最高							
		最低							
	湿度	最高							
		最低							
初期	温度	最高							
		最低							
	湿度	最高							
		最低							
繁殖 2F	温度	最高							
		最低							
	湿度	最高							
		最低							

各豚舎の温湿度を記録する紙。現場詰所に掲示してあり、毎日各豚舎担当者が書き込む。



◇新規デュロック種系統造成における新技術の紹介

昨年度から、農業総合試験場において新しいデュロック種系統造成を開始しており、国内外から様々なもと豚を導入し、交配を重ねている所です。今回の系統造成では、国内では初めての試みとして、もと豚導入の一部に受精卵移植技術を用いましたので御紹介します。

受精卵で導入したのは（独）家畜改良センターの系統豚「ユメサクラエース」で、宅配便により輸送後、農業総合試験場において移植し産子を得ました。



ユメサクラエース

写真提供元：（独）家畜改良センター

受精卵導入のメリットは、生体導入よりも伝染病及び事故発生率の低減及び輸送費も含めた導入コストの削減を図れる可能性があることや、能力の高い種豚の広域流通を行いやすくできることです。また、凍結して長期間維持することも可能となります。特に原種豚を育種・生産する種豚場においては、導入・維持・供給の各面からメリットがあります。

一方、豚における本技術はまだ十分には確立されておらず、生産効率が高くないことから、現状のままでは種豚場以外の一般生産農場での利用は限定的と言えます。

本県では、系統造成への利用と同時に、生産効率の安定など、技術確立に向けて研究を継続しています。今後も、養豚産業の将来に新たな可能性をもたらし、その発展を支えられるよう、農業総合試験場にて研究に取り組んでいきます。

※本研究は（独）農業・食品産業技術総合研究機構 生物系特定産業技術研究支援センターが助成する「革新的技術開発・緊急展開事業」により実施しています。

（連絡先）

◇畜産総合センター：0564-21-0201